

安倍前首相らが出席して 許世楷代表ご夫妻送別会

本誌編集部



杯を挙げる許世楷代表

全国から八百五十人が参集

六月一日、東京・港区のホテルオークラ東京において、離任が予想された台北駐日経済文化代表処の許世楷代表と盧千恵夫人を送る「許世楷代表ご夫妻送別会」が日華議員懇談会、日本中華聯合総会、在日台湾同郷会、本会など六十五団体の共催で開かれ、全国から約八百五十人が駆けつけた。

南丘喜八郎氏の司会により、まず許代表と学生時代からお付き合いの何康夫・在日台湾同郷会会長が開会の辞を述べ、続いて安倍晋三（前首相）、櫻井よしこ（ジャーナリスト）、金美齢（評論家）、詹徳薫（日本中華聯合総会会長）、ジュデイ・オング（女優・歌

手）、阿川佐和子（文筆家）、中川昭一（衆議院議員）の順に挨拶し、それぞれ許代表および盧夫人への思いやエピソードをユーモアを交えて語った。

安倍前首相は自民党幹事長や官房長官時代に、日本側の協議レベルを引き上げ、陳水扁総統とも連絡をとりあっていたことを明らかにした上で、「台湾は日本の安全保障にとって重要な地域であり、そのリーダーと話ができないのはおかしい」と強調し、さらなる日台関係の強化に期待を示した。

日台を「国際政治の中で運命を共有する二つの国」と強調する櫻井氏は、「許世楷大使や千恵夫人のような台湾人が健在である限り、日本と台湾の絆はより深く、より密接に保たれていく

ことと信じている」と語った。

金美齢氏は「許世楷夫婦とは長い長い付き合い。本当に心のつながっている同志。陳水扁政権が行ったもつともいいことは、許世楷氏を駐日代表にした人事だった」と語った。

ジュデイ・オング氏は「私は台湾人です。台湾は生みの親。日本は育ての親。この二つの国は仲良くあってほしい。許代表が日本を去った後でも、その心を継いでいきたい」と述べた。

中川氏は、愛知万博の担当大臣として、台湾パビリオン実現のために奔走したことを振り返りつつ、「台湾の方々から新渡戸稲造や八田與一など日本の歴史を教えられた。日本のことを知るためにも台湾からもつと学ばなければならぬ」と述べ、許世楷夫妻の今後のさらなる活躍に期待を示した。

次に花束贈呈が行われ、許代表には小川英子・在日台湾婦女会会長から、盧夫人には小田村四郎・本会会長からそれぞれ贈られた。また、記念品とし

て聖書が贈られた。

日台はますます近く

続いて、許代表と盧夫人による謝辞が述べられた。

許代表は、六月から小松と宮崎から台湾に定期便が就航し、台湾と定期便がある日本の空港が十カ所に達したことを紹介、日本と台湾がますます近くなっていることを強調した。また、過去の反共だけで一致していた日台関係から、民主化後は自由、民主、人権、法治といった社会的価値観を共有できる関係に成長したことが「台湾と日本の人の考え方を近づけている」とし、

「台湾が独裁の中国に併合されることがあるてはならない」と訴えた。

盧夫人は「私たちは（大使という）大きなお使いを、誠実、知性、デイングニティー（尊厳）を持って、希望、信仰、愛を持って務めてきた」と述べ、「これからも微力であるが、台湾と日本の絆のために力を尽くしていきたい」と語った。

この後、服部禮次郎・交流協会会長による発声で乾杯し、開宴後、会場では、許代表と盧夫人の日本で台湾の独立と民主化のために闘ってきた姿を映像にまとめた「許世楷代表ご夫妻の日本の歩み」が放映された。

宴もたけなわとなったところで、盧夫人が代表を務め、代表処職員夫人や女性職員で構成されるフォルモサ婦人会が舞台上がり、盧夫人自身が作詞した「我相信」ほか台湾語（ホロー語）の歌四曲を披露した。

閉会の辞では、許代表と台湾独立運動を通じた長年の同志である黄文雄・拓大客員教授が、許代表のやり残した仕事として正式国交の樹立を挙げ、日台間のさらなる努力を呼びかけた。

最後に、藤井厳喜・拓大客員教授が「台湾万歳！ 日本万歳！ 日台共栄万歳！」と三唱し、離任後に帰国する許代表と盧夫人を祝福した。



ジュディ・オング氏と安倍前首相



櫻井よしこ氏と金美齢氏



詹徳薫氏、ジュディ・オング氏、阿川佐和子氏



中川昭一氏